

読売歌壇

小池 光選

九十の一人暮らしはメダカ飼う動く物いるくら
しうれしと
川越市 和田美千子

【評】九十歳の一人暮らし。なんでもいい、
動くもの、いのちあるものが欲しいとメダカ
を飼う。ごく素朴な歌だが、胸を突かれる。
一匹のメダカがいま切実な隣人なのだ。
歌をしていて本当に良かった思わざりし胃がん
の手術も受けとめて詠む 西条市 山本美知子

【評】短歌を作る習慣をもっているところが
しみじみ良かったと思えるときがある。重い
病にかかったときなど、短歌が落ち込むこ
ろを支えてくれる。ありがたい。
ブルドックみたいな醜男われなれど妻はけん
めいに尽くしてくれる 匝瑳市 椎名 昭雄

【評】いくつになってもなかなか自分を「ブ
ルドック」や「醜男」などとは言えないもの。
一度作者の顔を拝みたくなった。
「そのうちにいい事あるよ」何気ない言葉が今
も胸に灯れり 東京都 榎本 セツ

投票日娘が祖父を支えつつ小学校への雪道歩む
東京都 広瀬 清信

春きらめく明石海峡いつつ読む阿久悠の自伝
小説 京都市 姥目樫

この世へと生まれ初めて見しは何 みどり児の
眼のみづみづとして 横浜市 古山 智子
ドームにてらん展を見るそれぞれの花がわた
しを見てーと言ってる さいたま市 大塚 数字
働いて昭和を生きて九十五吾が履歴書に学歴は
無し 船橋市 石村 一虎

犬猫のやうに吾にも尾があれば振りつつ君に愛
を伝える 村上市 鈴木 正芳

栗木 京子選

避難所でチョコを貰ったひな菓子も それで季
節を知ったあの年 芦屋市 中島富美子

【評】一九九五年一月の阪神大震災の折の記
憶だろうか。避難所での暮らしが続く中、パ
レンタインのチョコやひな祭りの菓子が季節
の訪れを知らせてくれた。甘味がもたらす思
い出はいっそう切なさを呼び起す。

報われぬ努力は本物では無いと今は思わず暗が
りで泣く 市原市 五十嵐旅人

【評】報われなくても、努力はすべて本物な
のだ。今はそう気付いた作者。複雑な言い回
しに葛藤の跡が見える。結句が印象深い。
将棋会でもバレンタインチョコ貰ふきつい手を
指す若き人より 箕面市 手島 愛雄

【評】なごやかな会の雰囲気想像できる。
「きつい手を指す若き人」という具象が効い
ており、作者の人間観察力がうかがえる。
目の前に椿の花びら食べるリスそんな出合いも
梅見の付録 横浜市 山本喜太郎

氷の花に陽の射すまでの束の間の命みている凍
える朝 南アルプス市 駒井 春美

この冬の日本海側大雪に疲弊のうめき上がるふ
るさと 盛岡市 舟山 治男

もし人に理想の夫婦問はれれば我が左手と右手
と思ふ つくば市 山岡 純子
午後七時ハンガーの巣で食べ物を物色してるカ
ラスの群よ 東京都 大沢 幸子
寒空を見上げて笑う幼き子まつ毛の雪を愛しく
思う 東京都 金谷 裕子

無人駅にきれいな花壇があるまちのシャッター
通りの元気な花屋 静岡市 柴田 和彦

俵 万智選

内側にearがあつて生き物のすべてにdeathは
覆いかぶさる 東京都 鳥さんの臉

【評】三好達治郷愁は海の中に母を、そし
てLa mer(仏語)母)の中La mer(海)を
見つけた。death(死)の中にeat(食べる)が
あるとは、なんと示唆的な発見だろうか。
洗ったり病んだり老いたり化粧したりドラッグ
ストアの通路は狭い 東京都 大岩 摩利

【評】上の句の動詞の羅列が面白い。ドラッ
グストアに並ぶ商品の描写なわけだが、人生
はなんて忙しいんだろうと思わせられる。通
路の狭さは、生きることの狭さかもしれない。
何かしら動詞のような顔をしてむにえるという
料理出される 宇都宮市 田村 成夫

【評】ムニエルとはフランス料理の魚の調理
法。迎える、構える、まみえる、むにえる…
なるほど、ちよっと動詞っぽい。
さらさらの衣を脱げば海老フライみたいな小さ
な小さな体 足利市 坂庭 悦子

自販機の作業の人に譲られてわたしが先に充填
される 東京都 富井井高志

これまでを忘れた祖父とこれからの孫に広がる
発見の日々 京都市 寺西 和史

リビングの春を自覚めさせるように金魚の影が
日なたを泳ぐ 宇部市 常田 瑛子

これとこれとこちを三つと指さしてうぐいす餅
をまた買います 所沢市 岡部 泉

薔薇の芽のようなひと言わたくしを一年かけて
ゆっくり殺す 大野城市 野分 のわ
吸い込んでべこべこへこむ2リットルペットボ
トルのような空腹 大野城市 亀田 巧

黒瀬 珂瀾選

厄年と言われ神社に来てみれば「去年でした」
と告げる神主 横浜市 児玉 尚輔

【評】笑ってしまいました。厄年だの何だの
と、縁起拍子(か)の程度ラフに考えるのがい
い。本人はいつかひたされたでしょうが……。
黒潮の飛沫く伊良湖の浜行けば遙か彼方に華山
の憂ひ 尾張旭市 小野 薫

【評】伊良湖浜の風光明媚を楽しむうち、当
地の偉人・開国論者にして弾圧に死した渡辺
華山の事績を思った。風土が歴史を思い起し
させる。その感興を描くのも歌の役割です。
みちのくの海に向かひて十五年いのち奪られて
命いたがたく 大船渡市 桃心地

【評】海と共に生きる者の心です。十五年前
の東日本大震災では海によって多くの命が奪
われた。しかし私たちは、海の恵みで命をは
ぐくんでもいる。自然と人間の関係を感じる。
チョコレートの原産地を尋ねるように子どもい
るの？と聞いてくるひと八王子市 吉村のぞみ

大國に共振すること揺れる日々風に真向かい聖
火も揺らぐ 香芝市 西津 英彦

いとほしく消残る雪は舗道に夜半のひととき冴
えしづまりぬ 羽咋市 中島 君夫

散歩への道に落ちたる紅椿踏みてしまへりひと
生の花を 北九州市 田浦チサ子

お年玉以上の役目探しつつ小一の孫とナンプレ
を解く 三郷市 伊藤 雅之

久々の新幹線の窓側の席が空の広さに
りゅうおつよ世界の半分もちうから平和に減ほ
せ残りの半分 船橋市 如月 悠帆

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇次回は23日(月)掲載 右の影絵はおひがん